

「受難の日々」 (2012)

昨年は南九州では畜産農家の皆さんは「口蹄疫」に苛まれ、大打撃を受け、今年になつては同じく南九州では「鳥インフルエンザ」の蔓延で又しても大打撃・・・それどころか、霧島の「新燃岳の噴火」による火山灰による被害、火砕流・土石流に備えての避難生活でダブルパンチに見舞われている。

一方、北国・山陰地方では数十年振りの大寒波による豪雪で、多くの人達、特に高齢者の皆さんが雪に埋もれて難儀をしているこの冬の日々だ。

そつこつ言つて皆が沈んでいる時を狙い撃ちするように、大相撲の「八百長疑惑」が持ち上がり、全面的な解決をしない内は、本場所も巡業も自粛だ等と、力士・協会はおろか関係者の被つた打撃は尋常ではなからう。

「これらの大きな災難とは別に」この世の中の逃れる事の出来ない、中位いの或いは小さな災難が多くの人の上に降り注いでいる。リストラ、就職難、破産、介護地獄・・・当の本人達にしてみれば、小さなどろかとんでもなく大きな災難である筈だ。

そんな日本全国あちこちの受難を見聞きしていたある日、わが町宇部に突然の受難がやつて來た。宇部市が誇る常盤公園の湖の白鳥達の内の1羽の黒鳥が死亡、高病原性鳥インフルエンザと判定され、湖の同じ餌

育エリヤの中の白鳥等340羽が即座に殺処分された。勿論公園への立ち入りも禁止され、市民挙げて悲しみに打ちひしがれている。

昨年4月20日に、富崎県において口蹄疫の発生が確認されました。感染が疑われる牛や豚等の家畜の殺処分や埋却・消毒、感染拡大を抑えるためのワクチン接種等の防疫措置を実施した結果、7月27日には家畜の移動制限区域がすべて

ときわ公園は面積約100haにおよぶ常盤湖を中心に広がる緑と花と彫刻に彩られた総合公園で、山口県初の「登録記念物（名勝地関係）」に登録されています。広大な園内は四季折々の自然美に彩られ「日本の都市公園100選」や「日本をくら名所100選」・「美しい日本の歩きたくなるみち500選」にも選ばれているほか、NHKが募集した「21世紀に残したい日本の風景」で、総合公園としては全国で第1位にランキングされました。

生き生きと暮らす動物たち

緑豊かで広大な園内には様々な動物たちが暮らしています。特にときわ公園のシンボルでもある白鳥は現在350羽を超え、これだけの数を飼育している施設は全国でも他にありません。この他にも、園内に放し飼いされ飼育数日本一を誇るペリカンやサル、ツルなど様々な顔ぶれで訪れる人々の笑顔を集めています。また、ときわ公園は野鳥の飛来地としても有名で、山の鳥だけではなく、海から500メートルという立地の影響から海の鳥も数多く観察することができます。

世界が注目する彫刻展「CBEBENナーレ」

宇都市のシンボルでもある彫刻。1961年「自然と人間の接点としての芸術を」という市民の声から始まった彫刻展は現在「CBEBENナーレ（現代日本彫刻展）」として世界的に知られるまでになつており、毎回世界各国から多くの作品が出品されます。園内には入賞作品をはじめ、90点を超える様々な作品が常設展示されており、自然と芸術が見事に調和した美しい景観が広がっています